

男性も担い手！これからの介護を考える

開催 2014年1月16日

1月16日、西早稲田キャンパスで、『男性も担い手！これからの介護を考える』を開催しました。講師には20年にわたる介護の取材現場から豊富な経験をお持ちであり、NPO法人パオッコ～離れて暮らす親のケアを考える会～の理事長を務められている太田 差恵子先生を迎え、昨今、社会問題となっている介護について語っていただきました。なかなか事前に考えることのない介護について一から学べるチャンスということで、教員、職員、そして学生まで幅広い層の参加者がありました。

まずは太田先生から、別居または同居の親と仕事のはざまで、家族、仕事、そして介護と向き合ってきた事例を紹介されました。共倒れしないためにはどういう方法で、新幹線でないと会いに行けない親の介護をどうするか、また、自分の親の介護のためにうつになってしまった配偶者の話など、会場では臨場感のあるその体験とその戦略を耳にしたことで、これから起こりうる事実として認識していこうという気持ちが高まりました。

就労者の8割が介護に不安を抱えるという現状を見ても、いかに介護が未知の世界であり、どうスタートしたらいいのか、どこから知識を得たらいいのか、何を学べばいいのかと戸惑っている人が多いことがうかがわれます。いわゆる「介護」とは「入浴、排せつ、食事などのサポート」といったものですが、太田先生から「介護は自分一人で抱え込み、実際に自分ですべてをするものではない。大切なのは戦略である。」ということが発信されました。「自分の親、配偶者などの介護は、自分自身の手で行うもの」という「当たり前」のように語られていたことが間違いであること、そして「介護休業は介護の戦略を立てるために取るものであり、自分で介護をするために取るものではない。さらには介護のために仕事を退職するというのは間違っている」という、参加者にとっては斬新かつ、心が少し軽くなるような知見をいただきました。

また、それでも悩んだ時には、早稲田大学には「ワークライフバランス・サポートセンター」という相談できる窓口があり、それを利用することも非常に大切であることをご紹介いただきました。

最後に太田先生からは「親にとって一番大切なのは子供が元気であること、そして笑顔であることである」というたいへん心に響く言葉をいただき、参加者もセミナーのスタート時より少し心が軽くなったような表情で会場を後にしていました。



△ 講師の太田先生



△ 真剣に講師の話を聞く参加者